

地震防災訓練を実施

9月3日(火)に、水資源機構の全事業所一斉での地震防災訓練を実施しました。

地震防災訓練は、防災業務の円滑かつ適切な遂行に資するとともに、機構職員の地震に関する防災意識・対応能力の向上を図ることを目的として、毎年9月1日の「防災の日」の前後に実施しているものです。

今回の訓練では、東海・東南海・南海連動地震により、川上ダム建設所付近で震度6弱の揺れを観測し、事業用地内で斜面崩落が発生したとの想定で、初動態勢の確保、情報収集・伝達方法などを重点的に確認しました。

震度6弱という大きな地震では、電気、水道、ガス等のライフラインが被災したり、防災本部が設置される建設所庁舎が被災したりすることも想定されます。

このような最悪の想定の中で、発動発電機を用いた電力確保や通信機器の設置等、防災本部に必要な設備を実際に設置したり、被災現場へ現地班を派遣し、防災本部と無線通信により情報伝達を行い、地震時に確実に対応できるのか、一つ一つの手順について確認しました。



発動発電機の始動訓練の様子



防災本部での情報伝達訓練の様子

今回の訓練では、慣れない作業等で悪戦苦闘する姿も見られましたが、何とか無事終了することができました。一方で、初めて見つかる課題もありました。

実際に地震等の災害が発生した場合は、必ずしも全員が参集できるとは限らず、少人数での対応も予想されます。その意味では、今回の訓練で職員全員が一連の流れを把握できたことは大きな成果だと感じました。

今後も職員一同、より一層防災意識の向上を図り、災害時には万全の態勢が執れるよう、努めて参りませ